三鷹市立第四小学校　令和8年度【道徳】科　授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第１学年	【成果】 〇友達と考えを交流することで、自分と違う考えや感じ方にふれる機会を少しずつ増やすことができた。 〇毎時間活動を振り返ることで、自分自身の思いを表現することができた。 【課題】 〇表面上には道徳的価値の理解や判断はできるが、自分事として考え、伝えたり、深めたりすることが難しい。	【現状】 〇資料の内容を読み取り、登場人物の気持ちになって考えることができる児童が多い。 〇自分の考えをすすんで発言することができる児童が多い。 【課題】 〇日常生活と結び付けて自分だったらどうするか、今後学んだことをどう生かしたいか等、学んだことを自分事として捉えている児童が少ない。	【習得と活用】 〇登場人物になりきって考えたり、葛藤したりと、今の自分を見つめて自分事として考えられるように、教材文の選択や中心発問を工夫していく。 〇教材を手掛かりに、子どもたちの実体験を振り返る機会を設ける。進んでよいことができたことを思い出しながら、よいこと、悪いことを学級全体で考えられるようにする。 【「三鷹『学び』のスタンダード】 ◎ペアやグループでの意見交流の機会を増やし、自分の考えと友達の考えの共通点や相違点に少しずつ気付かせていく。
第２学年	【成果】 〇学習する内容と自分とを重ねて考え、自分の考えをもつことができた。 〇振り返りの時間を確保したことで、次への意欲が高まった。 【課題】 〇自分の考えを表現することが難しい児童や、過去の自分の様子を振り返るのが苦手な児童は、友達の意見を聞くことが多くなっている。	【現状】 〇今の自分が感じたことを正直に伝えたり、役割演技をして登場人物になりきって考えたり、自分事として考えたりできる児童が一定数いる。 【課題】 〇自分の経験を振り返ったり、自分の考えを表現したりすることが苦手な児童がいる。	【習得と活用】 〇教材提示の工夫を図り、教材文に没入して考えられる児童が増えるようにする。その後振り返りで、自分の生活に振り返って考えられるよう、教材文の中で考える時と自分の生活として考える時をはっきり分けるよう声掛けをする。 〇役割演技や話し合いを通して教材文の場面を自分事として考えられるように工夫する。 【三鷹『学び』のスタンダード】 ◎考えた理由も書かせたり述べさせたりすることで、友達との意見の相違に気付かせ、友達の意見を聞いた後の自分を振り返られるようにする。またその差に気付かせるようにする。
第３学年	【成果】 〇資料を通して、人物の気持ちを想像したり、考えを述べたりすることができた。 【課題】 〇他の児童の考えを生かして考えを深めたり、道徳的価値について話し合ったりすることはできていない。	【現状】 〇教材文をじっくり読み世界に浸り、道徳的価値について自分のことと関連付けて考えることができている。 【課題】 〇授業内ではしっかり考えられているが、言葉だけになって自分の生活や行動につなげられていない姿が見られる。 〇正解を探して自分の考えに自信をもてず、考えを書くことを躊躇っている児童が複数見られる。	【習得と活用】 〇問い返しの発問を意図的に設定する。教材の世界と自分の行動や生活を結び付けて、本音で考える空間、話し合う空間を醸成する。 〇机間巡視しながら、考えを表出できていない児童には個別で声を掛け、児童の考えを価値付けられるようにする。 【三鷹『学び』のスタンダード】 ◎自分と同じ考えや立場の人、自分とは違う考えや立場の人との意見交流の時間をつくり、自分の考えを深められるような話し合いができるようにしていく。
第4学年	【成果】 〇導入等で自分の経験や今の自分について、振り返りの時間に過去の自分とこれからの自分について考えさせることで、様々な視点から考えていた。 〇友達の考えを聞く時間を確保することができた。 【課題】 〇知識としては道徳心、道徳的価値を理解しているが、全体共有する場面では、一部の児童が発言していることが多い。	【現状】 〇自分なりの考えをもって授業に臨み、友達と交流することができている。 〇道徳的価値について、発問に対して予想される受け答えができており、知識として理解できている。 【課題】 〇交流を通して、自分の考えを友達に伝えることはできているが、友達の考えを受けて自分をもう一度見つめ直そうとする姿が見られない。 〇道徳的価値の実現の難しさを自分事として捉え、考えようとするなど、実生活へ生かし切れていない。	【習得と活用】 〇中心発問では、考えをより深めるために教師による「切り返し」や「追発問」を行い、揺さぶりをかけることで、じっくり考える時間を確保していく。 〇振り返りでは、学んだことや感じたことだけでなく、今後の自分にどのように生かしていくかの視点で考えるように声掛けをし、自分事として捉えるようにしていく。 【三鷹『学び』のスタンダード】 ◎友達の意見を聞いて自分の考えがどのように変化していったのかを意識し、ワークシートを工夫していく。 ◎自分事として考えられるように、役割演技等行う。
第5学年	【成果】 〇事前アンケートの実施や児童の生活経験に迫る教師の発問の工夫を行い、児童は自分事として課題を捉え、考えることができた。 【課題】 〇すすんで考えを伝えている児童は一部に留まる。児童が多面的・多角的に思考し、考えを深める学習を実現するために、対話的な学びを促したり、考えを共有させやすくしたりする工夫が必要である。	【現状】 〇教材や内容項目に対し、児童が自分事として課題を捉え、考える授業を展開している。 〇児童同士が関わり合う場面を設定し、全体での検討に生かしている。 【課題】 〇考えを伝え合う場を設定するが、考えをもった児童が一方的に伝えるのみとなり、深め合いとなっていない。また、自分と異なる考えと出会っても、話合いが進まず、そう考えた理由やその良さに気付けていない。	【習得と活用】 〇個人で考えたり、他者と共有したりする時間や空間を分けることで、一人一人が考えをもち、学び合いに参加できるようにする。 〇板書やICT機器等を活用し、児童が考えを発信しやすくしたり、自分と異なる考えの存在に気付きやすくしたりする。 【三鷹『学び』のスタンダード】 ◎交流を通して自分の考えがさらに深められるよう、聴くときの態度(体を向ける、うなづく等）や視点（自分と似ているところ、違うところやその理由等)について指導を重ねていく。 ◎ペアやグループで意見をまとめ、グループ間で伝え合う活動を取り入れる。
第6学年	【成果】 〇ペア学習など、学習形態を工夫することで児童同士が意見を交流することができた。 【課題】 〇積極的に自分の意見を発言できる児童が限られている。全員が主体的に参加できるよう資料提示や発問などの工夫が必要がある。	【現状】 〇資料の内容について今の自分と重ね合わせて考えることができる。 〇自分自身の経験と教材とを結びつけ、学習課題を設定するようにしている。 〇自分の思いや考えを書こうとする児童が多い。 【課題】 〇自分の思いや考えをもち、ペアなど少人数での話合いでは伝えられる力を広げ、発信できる力を付ける必要がある。	【習得と活用】 〇児童の経験と教材を結び付けて学習課題を設定することを通して、児童が主体的に学びに参加できるようにする。 〇授業の導入で、内容項目に持つイメージや生活経験、その時点での思いの発表のさせ方（発言、無記名方式のアンケート等）を工夫することで、素直にまた全員が答えることができるよう工夫する。 〇ジャッジカードや教材絵など教具を工夫して話合い活動を行うことで、他者の多様な考えに触れる機会を確保し、意見交流の輪を広げていく。 【三鷹『学び』のスタンダード】 ◎道徳ノートを使用し、めあてや自分の考えだけでなく、友達の考えや活動内容等を自由に整理しながらまとめることで、自分の考えや学んだことを振り返ることができるようにする。